

# 令和7年度 学校自己評価システムシート（県立飯能高等学校 定時制の課程）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

目指す学校像	生徒一人ひとりの個性を伸ばし、社会で自立できる力を育てる定時制高校
--------	-----------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒が安心できる居場所づくりと生徒の自主性、自立性、社会性の伸長を目指す</li> <li>2 基礎・基本の定着と進路指導の充実を目指す</li> <li>3 保護者、地域や他機関との連携・協働を積極的に進め、開かれた魅力ある学校を目指す</li> <li>4 教職員の働き方改革に向けて、業務の見直しとICT化を図り、業務改善を目指す</li> </ol>
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局（教職員）	9名

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標				年 度 評 価 (令和8年1月28日 現在)				
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	年度末への課題と改善策	
1	<p>【現状】 小・中学校時代に不登校を経験するなど、学校生活でつまづきを経験した生徒が多く在籍しているものの、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導・支援や、SCやSSW、特別支援教育コーディネーター、日本語支援員等の外部人材や関係機関との連携等により、生徒の出席状況の改善や、安心して学習できる環境づくりが進められている。</p> <p>【課題】 多様な背景や困難を抱える生徒が在籍している中で、生徒にとって安心できる居場所の提供に加え、自主性・自立性・社会性を育む教育をさらに充実させる必要がある。</p>	生徒が安心して学び、自主性・自立性・社会性を育む環境の整備	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 教員間で生徒情報を密に共有するとともに、外部人材や関係機関と連携し、きめ細やかな指導と支援を強化する。</li> <li>② 学校行事や部活動、総合的な探究の時間に、生徒が主体的に参加できるよう工夫する。</li> <li>③ 教員と生徒の信頼関係を基盤に、社会的自立に向けた「報告・連絡・相談」の徹底を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 外部人材や関係機関と連携した支援の実施状況</li> <li>② 学校行事や部活動、総合的な探究の時間における生徒の参加状況</li> <li>③ 生徒が欠席や遅刻する際の担任への連絡状況</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① SCや日本語支援員等の専門家や、市町村の福祉関係課、警察等との連携を強化し、生徒一人ひとりの状況に応じた支援を実施した。</li> <li>② 体育祭や学芸祭、総合的な探究の時間などにおいて、生徒が主体的に取り組む様子が多く見られた。</li> <li>③ 担任による継続的かつ粘り強い指導により、連絡なく遅刻や欠席をする生徒の1日あたりの平均人数が0.18人に減少した（前年度0.40人）。※12月末現在</li> </ol>	A	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 外部人材や関係機関との連携を継続するとともに、教員間の情報共有をさらに密にし、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境づくりに努める。</li> <li>② 生徒の主体性を一層高めるため、生徒が主体的に関わる機会を増やし、より積極的な参加を促す。</li> <li>③ 社会的自立に向け、「報告・連絡・相談」の意識を定着させるとともに、計画的かつ継続的な指導を行う。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校内部で対応しきれない部分を外部機関と連携して補っており、その継続と質的強化を目指す姿勢を大いに評価し、今後の発展を期待している。</li> <li>・不安やコミュニケーションの困難を抱える生徒にとって、安心できる居場所は欠かせず、その環境づくりがさらに充実していくことを望んでいる。</li> <li>・生徒の居場所づくりが着実に進んでいる点を評価し、今後も継続的に取り組みを深めてほしいと考えている。</li> <li>・多様な取組により、生徒が安心して学び、自主性や社会性を育む環境が整っていると評価し、これからも一人ひとりに応じた支援の継続を求めたい。</li> <li>・生徒の多様な課題に寄り添い、学び直しや仲間づくりの支援を続けている点を高く評価する。無断欠席や遅刻の減少も素晴らしい、今後も根気強い指導をお願いしたい。</li> </ul>
2	<p>【現状】 学習面で苦手意識を持つ生徒が多く在籍しているが、教員による授業の工夫や学習サポーターの活用などにより、生徒の授業満足度は向上している。また、個別の指導・支援や就職支援アドバイザーの活用を通じて、前年度の進路実現率は100%を達成している。</p> <p>【課題】 学習面において、生徒間の理解度の差が大きい、生徒一人ひとりに応じた個別最適な学びをさらに充実させる必要がある。また、生徒の社会的自立を促進するため、体系的な指導や支援を行い、進路指導を一層強化する必要がある。</p>	生徒一人ひとりに応じた個別最適な学びと社会的自立を促進する指導体制の充実	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 教員の授業内容の工夫と、習熟度別指導の実施により、生徒一人ひとりに応じた学習指導を充実させる。</li> <li>② 学習サポーターを活用して、生徒の基礎学力の定着を図る。</li> <li>③ 地域や関係機関と連携し、社会的自立に向けた個別の指導と支援を充実させるとともに、就職支援アドバイザーと連携して、生徒の進路希望を実現する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 生徒への授業アンケートによる満足度（80%）</li> <li>② 学習サポーターの活用状況および欠点を抱える生徒の状況</li> <li>③ 就職支援アドバイザーとの連携状況および生徒の進路実現率（100%）</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ICT活用やペアワーク等を取り入れた授業内容の工夫、および習熟度別指導の実施等により、生徒の授業満足度は1学期78.3%、2学期は80.1%となった（前年度2学期75.0%程度）。</li> <li>② 基礎学力の定着が必要な1・2学年の授業を中心に、学習サポーターを延べ107日活用した。その結果、欠点を抱える生徒の割合は、1・2学期ともに12.0%となった（前年度2学期17.2%）。</li> <li>③ 個別の指導と支援に加え、就職支援アドバイザーとの連携を図った結果、就職・進学ともに、生徒の希望進路実現率は100%となった。</li> </ol>	A	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業内容の工夫を進めるとともに、相互に授業を観察し合う取り組みを継続し、生徒一人ひとりに応じた学習指導を充実させる。</li> <li>② 学習サポーターの活用をさらに進め、基礎学力の定着に向けた支援を継続する。</li> <li>③ 地域企業等との連携をさらに強化し、生徒の社会的自立に向けた進路指導を充実させる。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の授業満足度が向上し、欠点を抱える生徒の減少にもつながっている点を評価する。今後も希望進路実現率100%の達成を期待している。</li> <li>・学習形態の工夫が成果として表れており、今後も協働的な学びをさらに推進していくことを望んでいる。</li> <li>・生徒一人ひとりに応じた指導が成果を上げていると評価する。引き続き、授業の工夫や学習サポーターの活用により指導の充実を図ってほしい。</li> <li>・学習サポーターの活用が大きな成果を生み、ICT活用やペアワークによって授業満足度も向上している。今後も個別対応を重視し、4年生の進路100%の成果を高く評価している。</li> </ul>
3	<p>【現状】 学校説明会や中学校訪問を実施するとともに、ホームページを活用して教育活動を発信している。また、PTAによる下校指導を実施する等、保護者との連携強化を図っている。</p> <p>【課題】 現在、本校定時制教育の魅力や意義が地域や中学校関係者に十分浸透しているとは言えない。そのため、保護者や地域、関係機関との連携をさらに強化し、学校の魅力を広げ発信していく必要がある。</p>	保護者や地域、関係機関との連携と本校定時制教育の魅力発信	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 保護者を対象とした公開授業や学校行事を開催し、PTA活動の充実を図る。</li> <li>② 学校ホームページを活用し、本校定時制教育の特色や実績、生徒の活動を定期的に発信する。</li> <li>③ 学校説明会や中学校への情報提供を通じて、中学校関係者に本校の教育方針や成果を発信する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 公開授業や学校行事の開催頻度、およびPTA活動の実施状況</li> <li>② 学校ホームページの更新状況（55回以上）</li> <li>③ 学校説明会や中学校への情報提供の実施状況</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① PTAと連携した下校指導を実施したほか、体育祭や学芸祭、並びに授業を公開し、家庭と学校との連携強化を図った。</li> <li>② 生徒の活動や学校行事の様子等を随時ホームページに掲載し、年間48回の更新を行った。</li> <li>③ 11月に学校説明会を実施するとともに、12月に市内外の中学校を訪問し、中学校関係者に対して、本校の特色や教育内容を説明し、理解促進に努めた。</li> </ol>	B	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 学校行事等への保護者の参加を促進し、家庭と学校の連携をより強固なものにする。</li> <li>② 記事内容やレイアウトの工夫等により、ホームページによる情報発信の質をさらに高め、学校の魅力発信体制を強化する。</li> <li>③ 中学校関係者への情報発信を強化し、本校の教育方針や成果の理解促進に努める。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に対し生徒の学習成果を丁寧に伝えることで学校への関心がより高まるよう、今後の工夫を期待している。</li> <li>・情報発信の方法については、より効果的な手段を検討し、改善していく必要があると考えている。</li> <li>・達成度はBではあるが方策は概ね実行され、目標は達成されていると評価する。今後も保護者・地域・関係機関との連携による魅力発信を望む。</li> <li>・B評価ではあるものの、示された強化策は具体的であり、実質的にはA評価に値すると考えている。</li> </ul>
4	<p>【現状】 外部人材や関係機関との連携を通じ、教職員の負担軽減が図られている。また、ICTを活用した資料の共有などにより、業務の効率化が進んでいる。</p> <p>【課題】 学校が抱える問題や課題が複雑化・多様化する中で、外部人材や関係機関との連携に加え、ICTを活用した資料の共有や蓄積の仕組みづくりを進め、さらなる業務改善を図る必要がある。</p>	外部人材やICTを活用した業務効率化および教職員の負担軽減	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 外部人材や関係機関との連携体制を強化する。</li> <li>② チャットツールや資料共有フォルダの環境を整備し、効率的な情報共有と業務効率化を促進する。</li> <li>③ ICTの活用方法や効率的な業務遂行方法に関する教職員向け研修を実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 外部人材や関係機関との連携状況</li> <li>② チャットツールや資料共有フォルダの整備状況および活用状況</li> <li>③ 教職員向け研修の実施状況</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① SC・SSW・特別支援教育コーディネーターと計画的に連携し、生徒支援に関する教職員の負担軽減につながった。</li> <li>② チャットツールを活用した情報や資料の共有を行い、効率的な情報共有に努めた。その結果、業務の効率化と、教職員の負担軽減につながることができた。</li> <li>③ 生成AIの利活用に関する教職員向け研修会を実施した。</li> </ol>	A	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 外部人材や関係機関との連携を継続し、教員の心理的な負担軽減に努める。</li> <li>② 資料共有の方法をさらに工夫し、効率的な業務体制の構築をさらに進める。</li> <li>③ 教員のICT活用能力に応じた研修機会を提供するなどし、個々の業務改善を促進する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の取組で成果が出ていることを評価しており、今後さらに良くなるよう、引き続き業務改善の推進を期待している。</li> <li>・生成AIについては、教育現場に適した形での活用方法を十分に検討し、慎重かつ効果的に取り入れていくことを望んでいる。</li> <li>・方策の実行により教職員の負担軽減が進んでいる点を高く評価し、外部人材や関係機関との連携、ICT活用をさらに強化して取り組んでほしい。</li> <li>・限られた教職員が連携し効率的に業務を進めていることを評価する。引き続き多様なツールの活用や外部との連携を深めながら、課題解決を進めてほしいと考えている。</li> </ul>